



新年の挨拶 ー平成20年は飛躍の年ー

医学研究科長 本 間 研 一



新年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願ひ致します。昨年は医療費抑制政策の中で、医師の過重労働、診療科偏在、地域医療問題などが一気に吹き出した年でした。その余波は大学にも及び、大学病院経営、医師不足、臨床系大学院問題など、多くの課題

の解決に向けて明け暮れました。国立大学、特に医系大学・部局をめぐる環境が大きく変化していくなかで、北大医学研究科・医学部は新時代に対応すべく、ソフトおよびハード面で様々な改革を進めて来ました。そして、除々ではありますが展望が開けて来ています。

昨年の出来事をハード面からみていきますと、まず「東北研究棟の耐震改修工事」を研究科主導で行ったことです。平成15年度から年次進行で進められて来た研究棟の改修工事のなかで、耐震度が比較的良好 (IS値>0.40) という理由で後回しにされそうになった東北研究棟の改修を国への予算要求によらない新しい手法で断行しました。ここには、医学研究科5分野の研究室の他、医学教育支援室、国際連携室、広報室、北海道臨床開発機構事務局、資料保存室、そして約560㎡のオープンラボをもつ連携研究センター「フラテ」が入っています。また平成19年度の補正予算で、現在遺伝子病制御研究所との合同研究棟である「北研究棟の改修」が進められており、今春3月末に竣工予定です。新しい北研究棟の1～2階に、解剖学講座と生化学講座の4分野が入ります。なお今年、最後に残った中研究棟の耐震改修工事が補正予算で行われます。中研究棟の改修が終了しますと、これまで分散していた医学研究科の全分野が研究棟に集合します。またこの4月からは、老朽化の激しい附属動物実験施設の改修が研究科予算で始まります。

ソフト面では、昨年は「大学院の改組」を行ない、大学院重点化で細分化された専攻を1専攻(定員100名)に統合し、コース制を導入しました。目玉は、いわゆる患者を対象とした臨床研究の担い手を育成する臨床医学

コースです。ここでは最長2年間、学外の医療機関に設置した連携講座において実践的臨床医学を履修することができます。また、文部科学省「癌プロフェッショナル養成プラン」に対応した特別コースも設置しました。このコースは工学研究科や先端生命科学院と共に、道内医系3大学とも連携しています。これに伴い、大学院重点化で複雑化した組織を、生理系4講座、病理系2講座、社会医学系2講座、内科系2講座、外科系2講座、専門医学系4講座、先端医学系1講座の17講座に簡素化し、定員制に代わる「人件費ポイント制」を導入して教員人事の柔軟化を図りました。講座の名称も、解剖学、生理学、生化学など、昔なじみのものに戻っています。また、教員の名称変更にともない、新しい任用制度を設置しました。従来の大学教員の職務は研究が主体で、研究ができれば誰でも教員になることができ、特に教員資格試験なるものはありませんでした。しかし、大学の機能が大きく変化していくなかで教員の職務は研究能力だけでは立ちゆかなくなっています。そこで教員採用の際、特に助教採用の際には、教員としての適正審査期間の意味を含め、「5年間の任期制(再任なし)」としました。また同時に、教員採用基準や昇進基準を定めて公平で質の高い人事を実施することにしました。さらに、全学運用定員を積極的に活用し、医学とは異なる学問背景をもつ優秀な研究者を、連携研究センターの「任期付き教授」として採用しています。ここでは、昨年からの措置された「スタートアップ経費」を支給することにしました。また、北大全体で展開している「男女共同参画事業」にも積極的に取り組み、すでに2名の女性教員の昇進を実現しています。一方、多様化した教育機能に対応すべく、医学教育開発室を強化して「医学教育支援室」とし、専任の教員を配置しました。また、教育の国際化に対応した「国際連携室」を新しく設置し、留学生担当教員を配置しました。この1月には香港大学リカシン医学院と学生交換プログラム等の協定を締結する予定です。さらに、医学研究科・医学部の活動、研究成果等を外部に発信する「広報室」を設置し、専任教員と職員を配置しました。

研究の面では、昨年度に引き続き大型研究プロジェクトが採択され、活気を呈してきました。まず、連携研究センターを東北研究棟改修に合わせて整備し、「未来創薬医療イノベーション・プログラム」の拠点を確保しました。本プログラムは、科学技術振興調整費「先端融合領域イノベーション創出拠点形成」による10年間の研究期間（平成18-27年）と総額100億円を超す研究経費により実施される予定です。また、同じ科学技術振興調整費「橋渡し研究支援推進プログラム」による全国6拠点的の1つであり、道内3医系大学を中核とした「オール北海道医学医療拠点形成」の実施本部「臨床開発機構」を医学研究科内に設置しました。本機構はTR推進部と治験管理部からなり、全道600の医療機関の協力を得て、橋渡し研究の一大拠点を道内に形成するもので、総額十数億円の研究経費が5年間（平成19-23年）にわたって措置されます。また本年4月からは、文部科学省特別教育研究経費による「光イメージング研究推進プロジェクト」が医学研究科を責任部局とし、先端生命科学研究院と電子科学研究所との連携により5年計画（平成20-24年）で開始されます。これにも総額10億円を超える予算が措置されます。本プロジェクトは、医学研究科附属動物実験施設を改修し、オープンラボとなる5階に研究拠点を置く予定です。外部資金、特に競争的資金は、法人化大学においては命綱とも言うべきもので、その獲得には万難を排する必要がありますが、一方では一部教員や事務職員の業務に負荷がかかっています。遅れている研究支援体制、とくに人的体制を充実させる必要があります。

最後は、医学部創立90周年記念事業の目玉である「医学部会館」建設募金運動の展開です。総額10億円の事業費を確保すべく、昨年は研究科長室の隣に「推進室」を設置し、専任職員を配置して、本格的な募金活動を開始しました。これまで、医学部後援会（廣重力会長）の支援を得て目標額の25%を集めましたが、今年1年が勝負です。昨年は、募金対象を企業にも拡大し、研究科執行部メンバーを中心に400社を超す「企業回り」を行いました。また、この機会に、同窓生との交流を深める目的で「フラテ祭2007」を医学部で開催し、講演会、キャンパス・ラボツアー、交歓会を催しました。フラテ祭は今年も行われます。また、全国にある「フラテ会」との連携を目指す目的で、医学部学友会から「フラテ会旗」を贈呈することにしました。その第一号として、昨年末「函館フラテ会」にフラテ旗をお贈りしました。これらの活動の効果が出来たと思われ、昨年秋から募金額が急速に伸びています。

北大医学研究科・医学部は法人化後の熾烈な大学間競争に、やや遅れながらもスタートしました。今年は、これまでの活動成果をバネとして、この数年間で築かれた新しい地平から、さらなる発展を目指して大きく飛躍したいと思います。当面の目標はグローバルCOEの獲得で、医学研究科から提出している「革新的セラピューティクス開発教育研究拠点」は北大推薦として申請されます。医学教育研究における「堅実な活動」と「飛躍的な発展」のバランスの取れた展開により、個々の教職員の業績が上がり、生き甲斐に通じることを願って、私の新年の挨拶とします。

年頭にあたり

医学部保健学科長 小林 清一



平成20年の新しき年を迎え、一言ご挨拶を申し上げます。医学部保健学科は、平成16年4月に第1期生を迎え入れてから間もなく4年を経過しようとしております。この間に保健学科は、第1学年から第4学年まで800余名の学部学生が在籍する大所帯となりました。3月には

いよいよ第1期生が卒業し、学士を有する医療専門職（Health Professionals）を初めて医療現場等に送り出します。保健学科としての真価がまさに問われる時と言えます。保健学科の設置準備段階から現在に至るまで、多大なるご支援とご指導をいただきました医学研究科・医学部教職員の皆様に、この場を借りまして深く感謝申し上げます。

さて、保健学科では昨年完成年度を迎えつつ、保健学科の将来を左右する極めて重大な案件、すなわち保健学科を基盤とする大学院の設置計画に取り組んで参りました。遡ること平成17年10月に大学院設置構想検討WGが設置され、平成18年6月における医学研究科との大学院構想懇談会を経て基本的構想がまとまり、同年11月に大学院設置準備委員会が設立されました。翌平成19年1月文部科学省との第1回ヒアリングに始まる昨年は、まさしく大学院設置に向けた激動の1年間であったと言えます。理想と現実のギャップに知恵を絞りながら、何とか保健学科が意図する大学院設置計画書を6月に文部科学省に提出し、さらに設置審意見に対する補正計画書提出を経て、昨年12月3日正式に大学院保健科学院修士課程の設置認可書が手交されました。これも偏に医学研究科長をはじめとしまして医学研究科皆様方のご支援の賜と重ねて心より御礼を申し上げます。

大学院の詳細につきましては別の機会もあろうかとは思いますが、ここに特徴等を簡単に述べさせていただきます。先ず第一に、組織形態は北大が中期計画として推進しています学院・研究院構想に沿っております。学生の所属組織である大学院保健科学院修士課程は、保健科学専攻の一専攻（入学定員26名）とし、保健科学コースと看護学コースに区分されています。各コースには保健学科の各専攻を基盤とする科目群（教育研究領域）を配置しておりますが、特に、保健科学コースには健康科学科目群という融合領域を、また、看護学コースには実践看護科目群というユニークな領域を新設したのが第二の特徴です。前者の健康科学科目群は、保健学科の出身専攻はもとより、出身学部や大学を問わず医学的要素を導入した健康科学に関心を抱く学生や社会人に広く門戸を開いております。実践看護科目群は医療現場での看護実践を重視した教育課程で、将来的構想としての専門看護師（Certified Nurse Specialists：CNS）養成の基盤となる領域です。第三には、すべての授業科目においてEBH（Evidence-based Health：科学的根拠に基づく保健）の導入を目指し、次世代の保健科学をも担う高度医療専門職（Advanced Health Professionals）・教育者・研究者を育成します。このような構想を実現するためには、施設や設備などのインフラ整備と共に外部資金の積極的導入を推進し、トップダウンによる迅速的な組織運営体制を構築する必要があると考えています。

学院・研究院構想に伴い、保健学科教員は全員、医学部から大学院保健科学院へ移行し、保健科学部門を構成する6分野のいずれかに所属することになりますが、医学部を共通学部とする医学系部局の一つとして従前と同様の緊密な連携と共に、平成22年4月博士後期課程設置に向けて更なるご指導・ご鞭撻の程を何卒宜しくお願い申し上げます、年頭のご挨拶と致します。

北研究棟耐震改修工事の進捗状況

北研究棟改修WG 渡邊 雅彦

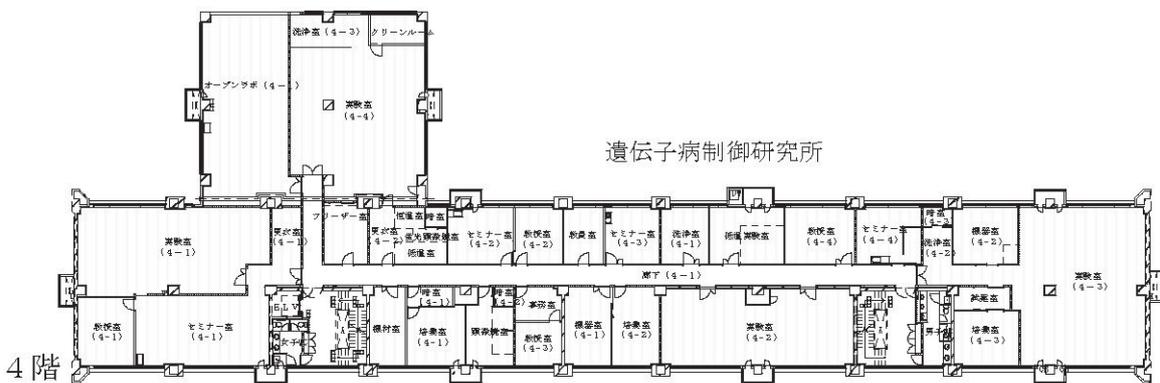
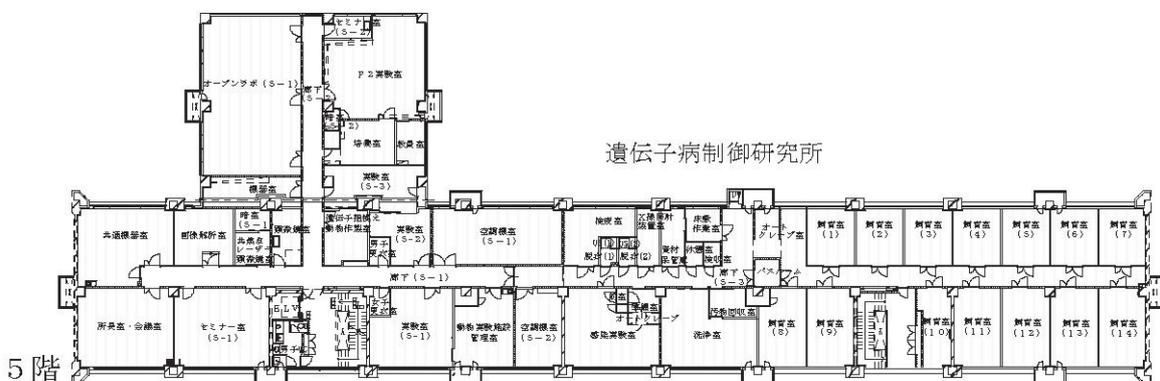
現在、医学研究科及び遺伝子病制御研究所が入居している北研究棟の改修工事が進行中です。

北研究棟の改修は、平成15年度から5工区に亘る改修計画の第3工区にあたるもので、当初の改修計画では、第1工区は南研究棟、第2工区は東南研究棟、東北研究棟、第3工区は北研究棟、第4工区は中研究棟、第5工区は管理棟、動物実験施設、図書館の順で計画されておりました。南研究棟の改修、東南研究棟の改修と滑り出しは順調でしたが、東北研究棟の改修（2006年1月発行の広報誌第30号で紹介）は、国家予算における文教予算の大幅な削減、建築物の老朽度の評価に導入された耐震係数0.4以下の建物の耐震改修という情勢から2年続けて先送りとされ、その結果として医学研究科の自己資金での改修となりました。このように当初の改修計画が順調に推移しているとは言い難い面はありますが、幸い19年度概算要求した北研究棟の耐震改修（耐震係数0.18）が認められ、現在、進められている耐震改修工事となっ

たものです。北研究棟の改修工事は事務局施設部の協力のもと、平成19年8月に着工し、平成20年3月末に竣工の予定で進められております。今回の工事では、建物を縦割りに2工区とし、第1工区の西側は12月末まで、第2工区の東側は3月末までに完成する予定です。

改修後の北研究棟には既存の計画にしたがって、1階に分子生物学分野、分子医化学分野、2階に解剖発生学分野、組織細胞学分野、3階から5階には遺伝子病制御研究所（但し、1階、2階の一部にも遺伝子病制御研究所が入居）が入居することになっております。（完成予定平面図を参照）

現在、第1工区が終了し、第2工区に入っています。完成まであと2か月半程ですが、本改修が計画通りに順調に進み、4月から新しい建物で教育研究ができることを北研究棟の入居予定者はもちろんのこと、医学研究科のすべての構成員が楽しみにしています。



附属動物実験施設改修工事の実施について

－平成20年4月から一部工事が開始されます－

医学研究科附属動物実験施設 施設長 三輪 聡 一

現動物実験施設は昭和49年（築33年）に竣工され、「北大に動物マンションー全国でも珍しい手術室や冷暖房完備ー」と新聞に取り上げられる等、当時としては最新の設備を有する高度な実験施設でした。

この施設も老朽化が進み、特に十数年前からは建物・設備の修理回数が頻繁になり、施設予算に占める修理費の増加、さらには実験環境が著しく低下しているため抜本的対応が大きな課題でした。この老朽化対策として、全館改修の概算要求を医学部事務部との連携の元、幾度となく進めてきた経緯があります。

基礎棟の改修は南棟から始まり、東南棟、東北棟が終了しました。現在北棟が工事中です。中棟も本原稿が掲載される頃には改修の可否が判明していると思われます。一方、動物実験施設は基礎棟改修の最終年度に予定がされていたものの、動物実験施設は耐震強度が改修基準以上であることがわかり、ここでも概算要求による改修は見通しが立たない状況となりました。

そこで、建物・設備の老朽化への対応が急務であるとの判断から、動物実験施設再開発検討委員会（委員長：本間研究科長）が平成19年4月に立ち上げられ、当研究科による改修計画の検討が本格的に開始されました。そして、平成19年12月13日の教授会にて、全体改修計画が認められました。まずは来春（平成20年）にその一部の第Ⅰ期分が実行される運びとなりました。

改修の概要及び日程等は以下の通りです。正式な設計図面の作成はこれからですが、参考までに原案の図面も添付致します。また、いずれの工事期においても、皆様のご心配な事として「飼育動物はどうなるの？」、「実験処置室は確保できるの？」等があると思われます。

これからの工事中の詳細については、適宜利用者説明会を開催し報告させていただくとともに、出来るだけ利用者の皆様にご不便おかけしないよう努力していく所存でありますので、ご理解・ご協力の程をよろしくお願い致します。

「改修の工事日程」

全体改修はⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期に分けて実施される予定です。

○第Ⅰ期工事

- ・対象区域：5階及び2階の一部
- ・工期日程：平成20年4月～7月（予定）

○第Ⅱ期工事

- ・対象区域：4階及び2階の一部
- ・工期日程：平成21年4月～（予定）

○第Ⅲ期工事

- ・対象区域：3階～1階
- ・工期日程：平成22年4月～（予定）

「改修後の内容」

1. 全工事の概要

1) 5階及び4階について

2フロアーは共同研究プロジェクト等の推進を容易にするため、フロアー全区域において耐震壁以外が撤去され、利用者の希望に添ってレイアウトが可能な構造とする。従って、従来の共同利用方式からオープンラボ方式に変更する。建物の中心区域には小動物飼育室を設け、その周囲に新たに空調機が設置された実験処置室や試料解析室を配置する。

2) 3階～1階について

3フロアーは従来通り共同利用区域とし、基盤研究としての動物実験の充実を図る。使用動物種は既存の全動物種に渡り、また、実験室の整備、胚凍結保存室、さらに実験者用の技術訓練室等を整備し、実験者への支援体制を強化する。加えて、実験動物・動物実験関連法規制に沿った適切な環境を維持する。

2. 第Ⅰ期工事（図参照）

5階全区域及び2階の一部の改修を行う。工事に伴う現在飼育中の動物と実験室の確保等は以下の通り。

1) 動物の移動

(1) 5階飼育動物

- ・イス、ブタ、ヒツジ→改修後の2階飼育室
- ・リソースマウス→医歯学総合研究棟

(2) 2階飼育動物

- ・モルモット→2階ウサギ室
- ・疾患モデル動物→2階Tg、KO飼育室
- ・ニワトリ、ネコ（現在飼育数0匹）

2) 大型動物手術室（二部屋）の移動

4階手術室の共同利用等の調整で対応する。

この改修計画は設備の老朽化対策のみならず従来の運用方法を一部変更する等から、最新の医学研究への対応や、教育面における動物実験実習が容易になる等、当研究科における動物実験に大きな効果が期待出来ます。

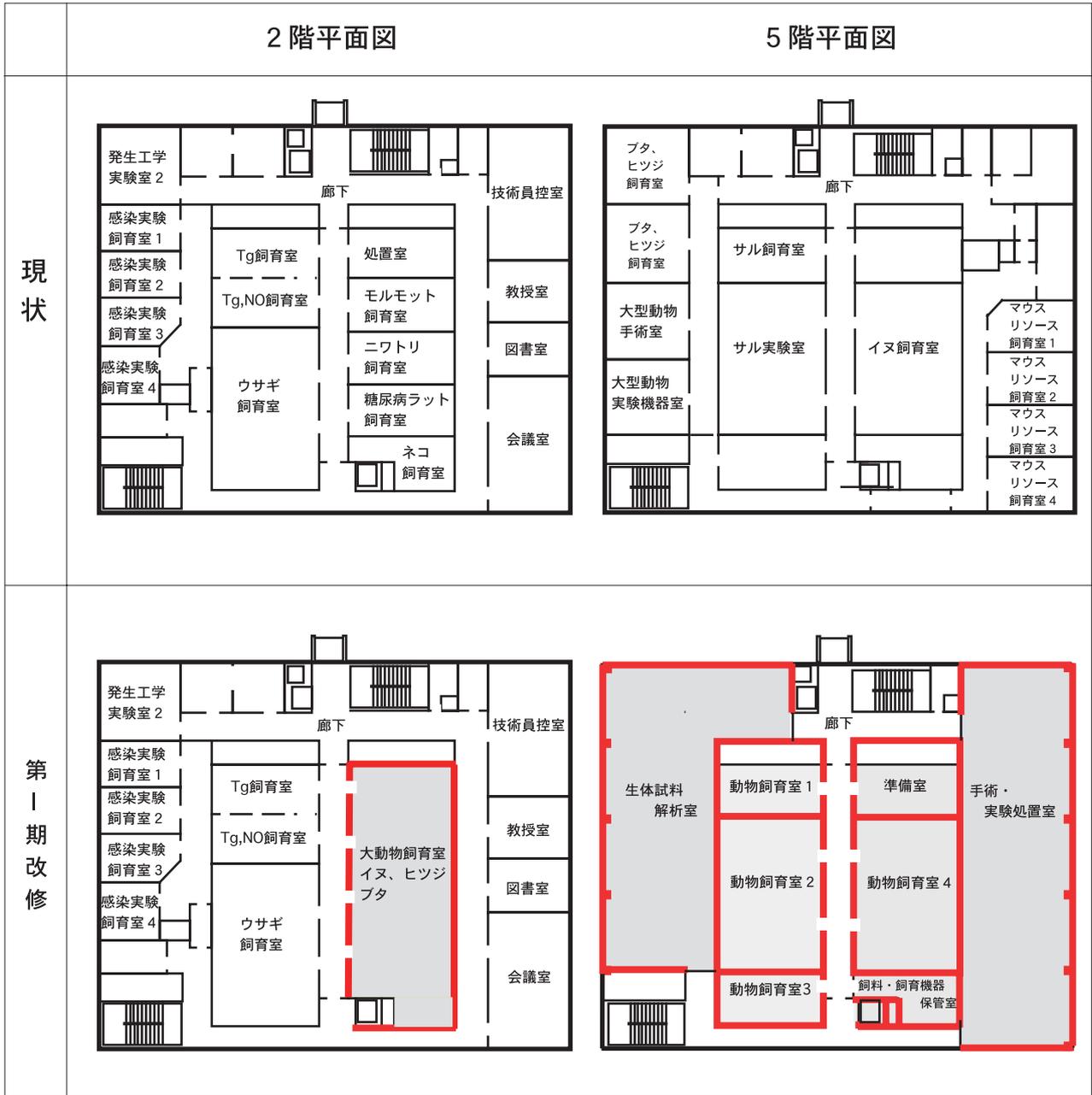


図)

香港大学李嘉誠医学院との交流協定

副研究科長 吉岡 充 弘

現在、医学研究科では香港大学李嘉誠（リカシン）医学院（The University of Hong Kong, Li Ka Shing Faculty of Medicine）との学部学生交流の具体的な協定（覚書等）の策定と締結へ向けての作業を進めています。昨年、李嘉誠医学院は創立120周年を迎え、様々な記念行事を行いました。その締めくくりとして参加者2,000名を超える盛大な祝賀会が、去る12月14日にHong Kong Convention and Exhibition Centre（香港會議展覽中心）で開催されました。香港大学は国際大学ランキングにおいて東京大学と肩を並べる16位にランクされており、世界のトップクラスの大学として優秀な人材を世界に排出しています。

李嘉誠医学院では、すべての講義や実習が英語で行われており欧州からの留学生（医学部生）も多く、小人数による学生－教員双方向性（interactive tutorial）の教育が充実しています。医学部教育は5年制（10学期制）で、その教育内容の特徴は呼吸器、循環器、消化器などといったsystem-basedのブロックカリキュラムから構成されています。また各年次にSpecial Study Module（SSM）が設定され、数週間にわたり医学のみならず医学以外の分野の知識を吸収すべく、海外の大学への短期

期留学を含んだプログラムが用意されています。さらに、6学期（3年次）修了後に一年間の研究トレーニングができるMaster of Research in Medicineのプログラムもオプションとして用意されており、このプログラム修了後、7学期（4年次）プログラムに復帰し、研究等を継続しつつ最終年次の第10学期に20,000wordsの論文を作成することを修了要件としています。このプログラムを履修すると、医学士とともに修士号（Master of Research in Medicine）が卒業時に授与されます。北大医学部では上記MMSのプログラム一環として李嘉誠医学院の学生を受け入れ、また本医学部6年次に設定されている選択実習のひとつとして李嘉誠医学院へ学生派遣を行い、学生教育相互交流を行いたいと考えています。

本交流の具体的な推進のため、1月30日にLiang医学院長をお招きし、国際交流協定書および学生交流に関する覚書の調印式を執り行うことになっています。この交流は北大医学部学生に対して大きな教育効果が期待できるのみならず、教員にとってもよい刺激になると考えられます。関係各位のご理解とご支援をお願いいたします。



図1 昨年5月の香港大学李嘉誠医学院訪問
左から本間医学研究科長、Liang医学院長、吉岡副研究科長

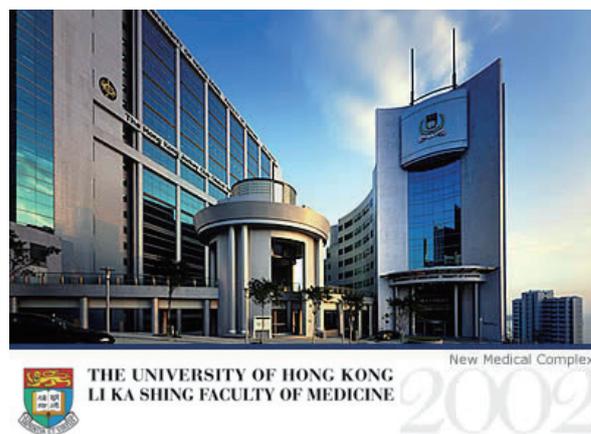


図2 香港大学李嘉誠医学院の正面玄関

教授就任挨拶

時間生理学分野 教授（時間医学講座 教授兼任） 本間 さ と



平成19年9月16日付けで、医学研究科生理学講座時間生理学分野（旧生理学第一講座）の教授を拝命いたしました。時間生理学分野の主任教授は、これまでどおり本間研一教授です。同一分野に2人目の教授となります。また、昨年開講されました寄附講座「時間医学講座」の教授を兼任いたします。大学の法人化に伴い、従来の1講座に教授・助教授・助手が1：1：2という定員制から、人件費総額管理制に移行し、定員枠にとらわれない人事が可能となりました。このため、今回、医学研究科としては初めての、資格認定による教授となりました。今回の教授就任人事に関し、新制度への教授会の先生方のご理解と賛同を心から感謝します。北海道大学では、女性教員を積極的に採用するための男女共同参画事業を行っており、教授昇任に伴う給与差額を本事業による中央経費から負担していただいていると聞いております。大学院卒業当時の女医・女性教員はお荷物という雰囲気からは想像できない変化であり、ようやく大学もここまで来たかという感があります。時間生理学分野は、昨年開設されました連携研究センター「フラテ」の基盤分野であり、また時間医学講座は連携分野です。この様に、大学院重点化、法人化を経て、大学を取り巻く環境は益々流動的であり、学内、研究科内でも、様々なシステムがどんどんと変革されております。この中で、自分を見失うことなく、常に研究や教育の先端を担う覚悟で望む所信です。

私は、本学医学部48期生で、卒後、生理学第一講座の大学院、北大病院小児科の医員、解剖学第三講座の研究生、病院中央検査部医員等を経て、1981年に生理学第一講座の助手に採用されました。その後は、生理学講座にて講師、助教授として研究・教育に従事して参りました。ドイツ留学時期を除き、ずっと北大医学部・医学研究科ですごしております。

研究テーマは、生体リズム、生物時計のメカニズム

で、主に、ラット・マウスを用い研究を行っております。助手に採用された当時は、もっぱら、個体の行動、ホルモン、神経伝達物質などのリズムを指標として、ほ乳類のリズム発振機構、特に中枢時計である視交叉上核の自律振動機構や中枢覚醒剤により発現する行動リズムのメカニズムなどを研究しておりました。1990年代に入り、視交叉上核培養系を用いた研究をスタートさせ、マルチ電極アレイディッシュを用いた単一神経細胞リズム解析等を行ってまいりました。1997年に、ほ乳類で最初の時計遺伝子がクローニングされ、研究手法や方向性が大きく変化しました。重要な時計遺伝子であるBmal1の遺伝子機能を検討していたところでしたので、リズム研究が大きく進展していく中で、傍観者ではなく、当事者として研究に参加できたのは大変な幸運でした。研究の対象が、この様に個体から組織、細胞、分子と、対象がどんどん小さくなってきていきましたが、現在は、再び、個体の機能に注目しています。2000年以降、生物リズム研究がさらに大きく発展した理由の1つに生物発光レポーターの利用という技術革新があります。現在、医学研究科では、連携研究センターの光生物学分野との緊密な共同研究により、最新の発光プローブをリズム研究に応用できるチャンスに恵まれています。今後は、自由に行動している覚醒個体内で、分子の動きをリアルタイムで追うことを目標にしています。

専門教育の最初に受ける生理学は、毎年、かなりの学生が単位を落とす難関です。暗記だけでは対応できないのが理由の1つと考えられますが、生体の生理機能を知ることが医学の第一歩です。学生の将来のために安易な温情主義は廃するという、本間研一、福島菊郎両主任教授の考えに、私も全面的に賛成しております。このため、今後も、3年目の1学期は、学生にとって厳しい季節であり続けたいと思います。

研究の急速な進展や先端化に伴い、一人でカバーできる領域は限られてきました。大学内外での積極的な共同研究を介し、新たな研究の展開を図る必要があります。研究・教育両面での、諸先生方のご協力を、よろしくお願いいたします。

「先端医学講座 トレーサー情報分析学分野」 (連携研究センター『フラテ』の分子・細胞イメージング部門)

教授 久下 裕 司



今回新たに設立された“トレーサー情報分析学分野”を担当させていただくことになり、昨年10月1日に、こちらに赴任いたしました。この新しい分野の研究室・実験室は医学研究科東北棟2階のオープンラボスペースに位置しています。

当分野では病気の状態や治療効果を分子・細胞レベルで的確に把握することで最適な治療を提供できるような画像診断技術、いわゆる『分子イメージング技術』の開発を目指します。すなわち、PET（ポジトロン断層撮像法）をはじめとする分子イメージング用のプローブを開発し、これらを駆使した分子細胞機能の映像化を進めていきます。

他方、当分野は連携研究センター『フラテ』の分子・細胞イメージング部門にも属しています。連携研究センターは、長期的展望に基づいた堅実な知を追求する基盤的研究と目標を設定した戦略的研究に基づく大胆な知の追及を融合する学際的医学研究の拠点として設立された研究プラットフォームです。当分野では、この理念に基づき、基盤分野である核医学分野と協力して、各種疾患の病態に関与する酵素・受容体などの分子レベルの機能を解明しうる分子プローブの開発とその評価、トランスレーショナルリサーチを行い、臨床への応用を目指しています。

このような背景の下、当分野では、放射線医学・核医学分野をはじめとする様々な研究分野の先生方、企業の研究者の方々の協力をいただき、以下の4つのテーマを設定し、研究・教育活動を開始しました。

1) 分子イメージング技術を腫瘍の放射線治療・分子

標的治療や、動脈硬化における不安定プラークの検出などの診断治療に応用すること。

2) PETによる高度診断技術を先端創薬技術と融合させることにより、疾患の治療効果や体内での薬の動きを正確に捉えることが出来る新たなイメージング技術を創製すること。

3) 病態評価、治療効果判定、治療戦略の選択の観点から、分子・細胞の機能的変化の判定に最も適した分子、すなわちイメージングの標的分子を探索し、そのイメージングを可能とする分子プローブを開発すること。

4) 分子イメージングに関する専門家の育成を行うこと、すなわち、急速に普及している分子イメージングを支援し、技術の向上を図るための人材を育成すること。

このような研究により、一人一人の患者に即した最適治療の選択を可能とする新しい疾患診断技術を確立し、個別化医療を実現することが可能であると考えられます。また、イメージングによる新しい創薬手法を提供することで、迅速な医薬品開発に貢献できると考えています。このように、当分野では、疾患診断治療技術の開発を通して、患者さんにやさしい医療を提供するとともに、医療を支える研究者・医療従事者の育成を行っていきたくと考えています。ご支援・ご指導をよろしく願います。

なお、当分野では、ご一緒に研究できるパートナーや共同研究を随時募集しています。お気軽に医学研究科東北棟2階のトレーサー情報分析学分野研究室にお立ち寄りください。

特別企画「今年の抱負 年男・年女」

医学研究科・医学部広報発行以来、初めての特別企画。本年、年男・年女となる子年生まれの教員から今年の意気込みをいただきました！

皮膚科学分野 准教授 秋山 真志

今年は、3年前から取り組んでいるノックアウトマウスのデータをまとめあげ、是非、大きな論文として発表したいと思います。

光生物学分野 教授 近江谷 克裕

今年に懸ける、今年を駆ける！！

40代の区切りの年、研究では「光イメージング」で大輪の花を咲かせたい。また、メタボリックな身体をしっかり管理、健康で笑顔の絶えない1年としたいです。

免疫学分野 助教 押海 裕之

今年は、免疫学的な基礎研究を通して、どんな「がん」でも治療できるような、そんな画期的な治療法につながる重要な新発見をして、がんを患う世界中の人の苦しみを無くせるように頑張りたいと思います。

保健学科放射線技術科学専攻 教授 酒井 正春

今年、私は還暦を迎えます。保健学科では4月に大学院も設置され、今までにも増して「初心忘るべからず」の気持ちで、研究、教育に精進したいと思っています。

国際連携室 講師 高野 廣子

年女だからといって特別な抱負はありません。2007年にひきつづき、国際連携室専任教員として外国人留学生を支援し、留学生から信頼される存在になるように地道に努力していきたいと思っています。

保健学科・放射線技術科学専攻 教授 伊達 広行

年齢を重ねるごとに時間の進行が速く感じるのは、過去の記憶によって現在の意識（量）が相対的に小さくなるためであるという某教授の説を聞いて納得した。記憶の積分値は判断力を培うはずであるが、未だ「不惑」に非ず。今年はその域に到達したいものである。

病態医学分野 助教 津田真寿美

万能幹細胞を始め、昨今の医療研究は魅力的な話題が一杯です。干支の最初を走る「ねずみ」のように最先端の研究に敏感でありつつ、地に足をつけた実りある研究・教育ができればと考えています。

環境医学分野 助教 若尾 宏

これまでにマウスES細胞からin vivoで機能を発揮する免疫制御性細胞を分化誘導させることに成功したので今年は霊長類ES細胞から同細胞を分化誘導させて、再生医療実現の第一歩としたい。

(50音順)

連携研究センターシンポジウム開催のお知らせ

副研究科長 吉岡 充弘

医学研究科では平成18年4月に生命科学研究における堅実な知の探求と飛躍的に未来を切り開く大胆な知の創造を追求する組織体制として連携研究センター「フラテ」を創設し、企業などと連携して、広い領域の科学技術の成果を医療や健康維持活動分野におけるイノベーションへ発展させる研究活動の取組を行っております。このたび、下記により第2回シンポジウム及び懇親会を開催することといたしました。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

場所：北海道大学学術交流会館 小講堂

(札幌市北区北8条西5丁目)

日時：平成20年2月1日(金)13:00～18:00

【シンポジウム】

龔剣萍（北海道大学理学研究院教授）

「生命科学時代の新材料—ソフト&ウェットマテリアルの創成」

小澤岳昌（東京大学大学院理学系研究科教授）

「新規光プローブが拓く生体分子イメージング」

有川二郎（北海道大学大学院医学研究科教授）

「人獣共通感染症流行ウイルス型の鑑別診断：ハンタウイルス感染症を例として」

饗場 篤（神戸大学大学院医学系研究科教授）

「遺伝子操作マウスを用いた代謝型グルタミン酸受容体の機能解析」

【特別講演】

上坂 充（東京大学大学院工学系研究科教授）

「医学物理学への期待と高精度放射線治療装置開発」

【懇親会】

18:15～ 北海道大学百年記念会館レストラン「きやら亭」

(札幌市北区北9条西6丁目)

医学基礎コースガイダンスおよび医学部懇話会（2年次）の開催

教務委員会副委員長 渡辺 雅彦

10月1日（月）、学生食堂「はるにれ」において、医学基礎コースガイダンスおよび医学部懇話会が開催された。今年から学士編入学が2年次2学期入学となったことに伴い、医学基礎コース進級者に加え5名の学士編入学生の計103名が対象となり、多数の基礎系教員も参加した。

医学基礎コースガイダンスでは、教務委員会副委員長から進級要件と学生生活上の諸注意、図書閲覧係長から医学部図書館の利用方法について説明がなされた。今年の医学基礎コースで14名の留年者がでていること、超低空飛行（GPAが1.6以下）で医学部を卒業することの危険性など、具体的な数値データを提示して注意を喚起した。

懇話会では、2年次学生の鈴木和治君の司会により、

本間研一学友会会長・医学部長の挨拶、野々村教務委員会委員長による乾杯、歓談に引き続き、出席した医学基礎コースおよび基本臨床コースの基礎系科目を担当する14分野の教員から授業科目や分野の紹介が行われた。医学基礎コースから基本臨床コースに無事進級した3年生の阿部圭史君、桔梗谷学君、石川麻倫さん、平澤絢香さんから、このコースのポイントや鬼門などについて下級生への助言があった。2年次学生諸君からの質問も相次ぎ、飲食も進み、予定していた1時間半があつという間に過ぎた。よく話し、よく聞き、よく食べる、まさに文字どおりの「懇話会」であった。このような学生と教員のふれあいの場が、学生の学修意欲を向上させ、大学生活をよりよいものにするを願っている。



医学部保健学科講座紹介「放射線技術科学専攻放射線技術学講座」

医学部保健学科放射線技術科学専攻 教授 清水 匡

医学部保健学科放射線技術科学専攻は2つの密接に関連した講座で構成されています。すなわち、放射線診断、治療装置の原理・仕組みなどのハードウェアや、医用画像に関するソフトウェアなどの医用理工学講座とこれらの技術・知識を用い診断・治療の臨床領域の教育、研究を行う当放射線技術学講座です。

本講座は教授3名、准教授、助教、助手各1名の教員がおり、それぞれ臨床画像技術学、放射線治療技術学、医用核技術学の分野を担当しています。教員は北大病院での診療も兼務しており、最先端の臨床医学を教育に反

映し、また、高度な医療を背景とした臨床研究も行っています。

まだ、発足4年目の講座ですが、単に診療放射線技師の資格取得を目的とするのではなく、次世代の画像診断、放射線治療を牽引する人材の育成と研究を行います。

なお、平成20年度より大学院がスタートし、所属が大学院保健科学研究院医用生体理工学分野となる予定です。

平成19年度医学教育等関係業務功労者の表彰について

病理細菌技術職員 清水 和子

このたび、医学教育等関係業務功労者表彰として文部科学大臣賞を賜り、身に余る栄誉と深く感謝申し上げます。表彰に当たり、ご尽力くださいました方々に心より御礼申し上げます。

私は昭和37年6月に分子細胞病理学（旧第2病理）に非常勤職員として1年2ヶ月、翌38年8月に正式職員として採用されました。その当時の医学部は現医学部保健学科の所にありました。

趣のあるクラシックな建物は周りの松と調和しコの字型になった芝生の青々としたローンを挟み1、2階建てに基礎講座が集中していたその1階に講座がありました。昼休みになると芝生でお弁当をひろげる人、読書をする人、木陰でお昼寝をする人、キャッチボールをする人など思い思いに楽しんでいました。

教室での仕事は病的材料や病理解剖、実験動物、学生実習の標本作製、特殊染色などが主でした。当時は緊縮

財政で物資も乏しくガーゼやプレパラートは何度か洗剤で洗い再利用したものです。

特殊染色も試薬の品質が悪く納得のできる染色をめざして休日返上で頑張ったことも、その結果として最高の染まりといわれたことは忘れることができません、また励みにもなりました。組織のバラフィンブロックを薄切するための刃は手砥ぎ（今はディスクの替刃です）のため職人技が必要とされました。長い時を経て徐々に自動化が進み、ある部分では作業時間も短縮され、正確性や迅速性はより求められつつも手作業が多く質の高い技術力、職人技的な事も求められます。このようなやりがいのある仕事に長年携わってこられたのは、本当に幸せなことです。ご指導頂きました諸先生、諸先輩そして良き同僚、後輩と多くの方々からお礼申し上げます。

又、事務の方にも事務的な事で大変お世話になりました。ありがとうございました。

平成19年度 医局対抗野球大会

平成19年度 医局対抗野球 幹事 第三内科 はた 幡 はた たもつ 有

本年度は我々第三内科が主幹をさせていただきました。今大会も、参加した全15医局、医学部野球部のご協力によって比較的スムーズに大会運営が進みました。誠にありがとうございました。

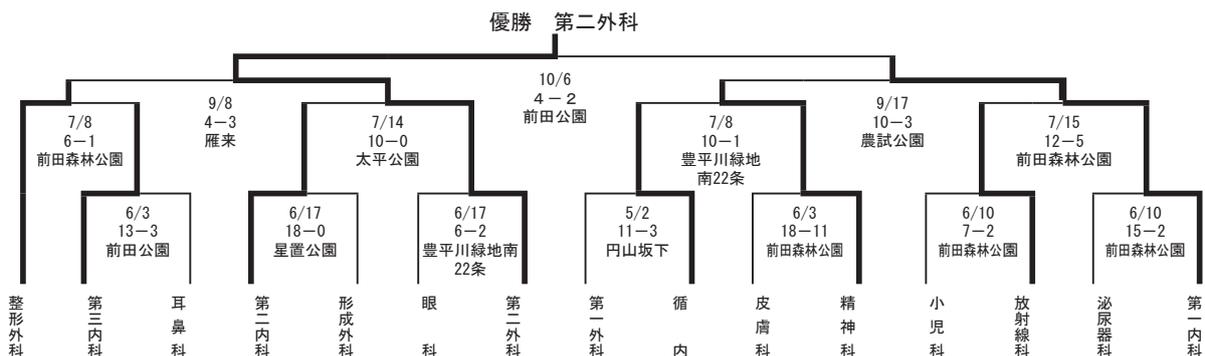
ここ数年の傾向通り、各チームとも参加人員の確保に苦労されている様子でした。研修医や病棟看護士さん（男性）らの参加も目立ちました。特に看護士さんの参加資格に関しては、各科とも共通病床などの兼ね合いもありますので、今後もう少しルール作りが必要なのかもしれません。

結果ですが、1回戦を勝ちベスト8に残ったチームは精神神経科、放射線科、第一内科、第二内科、第三内

科、循環器内科、第二外科、整形外科（昨年優勝：シード）でした。しかし、準々決勝では昨年ベスト4の循環器内科が精神神経科に5回コールドで敗れる波乱がありました。準決勝は第一内科がその勢いにのる精神神経科を、第二外科が昨年優勝の整形外科をそれぞれ破り決勝に進出しました。決勝戦は10月6日、前田公園野球場で行われ、4-2で強豪第二外科が2年ぶりの優勝となりました。準優勝は第一内科でした。

来年度の主幹は神経外科となっております。来年度以降も引き続きの熱戦の展開を期待しております。何卒よろしくお願いたします。

平成19年度 医局対抗野球トーナメント表



医学部創立90周年記念事業基金募金活動の現状 -第5報-

医学部創立90周年記念事業実行委員会副委員長 小 山 司

新年明けましておめでとうございます。昨年中は医学部創立90周年記念事業につきまして絶大なるご支援をいただき心より感謝申し上げます。今年も引き続き本事業の展開が継続されますので、なお一層のご理解とご協力をお願い致します。

昨年12月末現在の募金の納入状況は表のとおりとなっています。医学科、病院、保健学科の各教員の寄附納入率は全てアップし、教員全体では53.9%で、半数以上の教員からご協力をいただいたこととなります。

また、同じく12月末までにご寄附いただいた法人・企業・団体等の名称を掲載させていただいております。ご寄附をいただいた企業等の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、教員をはじめとする関係各位からの企業等のご紹介・お声かけに感謝いたします。

教員の皆様におかれましては、教員の寄附納入率100%達成、ひいては医学部、病院の発展のために、なお一層のご尽力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

寄附金納入状況（平成19年12月31日現在）

寄附金合計				247,287,556円
◎教 員		212名／	393名 (53.9%)	39,860,000円
	(内訳)			
	医学科	教員	103名／	143名 (72.0%)
		特任教員	6名／	17名 (35.3%)
	病 院	教員	79名／	148名 (53.4%)
		特任教員	2名／	7名 (28.6%)
	保健学科	教員	22名／	78名 (28.2%)
				4,920,000円
◎分 野		1件		1,000,000円
◎同門会 (団体)		2件		2,000,000円
◎同窓生 (教員は除く)		785名／	5275名 (14.9%)	118,297,671円
◎学生の父母		78名／	1413名 (5.5%)	8,919,885円
	(内訳)			
		医学科	62名／	609名 (10.2%)
		保健学科	16名／	804名 (2.0%)
				7,519,885円
				1,400,000円
◎法人等		97件		73,710,000円
◎篤志家 (団体・個人(同門会員を含む))		15件		3,500,000円

ご寄附いただいた法人・企業・団体等

1	医療法人 愛全会	33	医療法人社団 幸和会 くとさん外科胃腸科
2	医療法人 あすくレディスクリニック	34	医療法人社団 五風会 さっぽろ香雪病院
3	医療法人 いしかわクリニック	35	医療法人社団 司馬内科クリニック
4	医療法人 英生会 野幌病院	36	医療法人社団 新日鐵室蘭総合病院
5	医療法人 エム・ティー・エス 北海道泌尿器科記念病院	37	医療法人社団 信和会 石川泌尿器科
6	医療法人 王子総合病院	38	医療法人社団 苫小牧緑ヶ丘病院
7	医療法人 歓生会 豊岡中央病院	39	医療法人社団 豊平おおたこどもクリニック
8	医療法人 清田病院	40	医療法人社団 西谷皮膚科医院
9	医療法人 溪仁会	41	医療法人社団 プリモウイメンズクリニック
10	医療法人 啓生会病院	42	医療法人社団 平成醫塾 苫小牧東病院
11	医療法人 研成会	43	医療法人社団 萌生舎 宮の沢泌尿器科クリニック
12	医療法人 耕仁会 札幌太田病院	44	医療法人社団 朋友会 石金病院
13	医療法人 康清会	45	医療法人社団 北斗
14	医療法人 札幌グリーン病院	46	医療法人社団 友愛会 恵愛病院
15	医療法人 彰和会 北海道消化器科病院	47	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院
16	医療法人 新札幌整形外科病院	48	医療法人社団 我汝会 えにわ病院
17	医療法人 仁楡会	49	特定医療法人 修道会 本田記念病院
18	医療法人 正観会 御野場病院	50	特定医療法人 仁愛会 浦添総合病院
19	医療法人 つつみ整形外科クリニック	51	特別医療法人 明生会
20	医療法人 糖生会 大通り内科クリニック	52	特定医療法人社団 カレスサッポロ
21	医療法人 徳洲会 札幌徳洲会病院	53	特定医療法人社団 千寿会 三愛病院
22	医療法人 中江病院	54	釧路泌尿器科クリニック
23	医療法人 ひまわり会 札幌病院	55	総合病院 伊達赤十字病院
24	医療法人 母恋 (旧 医療法人社団 カレスアライアンス)	56	広田医院
25	医療法人 北海道整形外科記念病院	57	池田暖房工業株式会社
26	医療法人社団 愛心館	58	エフビー株式会社
27	医療法人社団 石山医院	59	株式会社アークス
28	医療法人社団 いずみ会 北星病院	60	株式会社アミノアップ化学
29	医療法人社団 いぶり腎泌尿器科クリニック	61	株式会社大林組 札幌支店
30	医療法人社団 エス・エスジェイ 札幌整形循環器病院	62	株式会社グランビスタ ホテル&リゾート 札幌グランドホテル
31	医療法人社団 慶愛会 札幌花園病院		
32	医療法人社団 恵水会 田島クリニック		

63	株式会社玄米酵素	75	北海道電気工事株式会社
64	株式会社スクウェア・ワン	76	北海道厚生農業協同組合連合会
65	株式会社太陽グループ	77	北海道コカ・コーラボトリング株式会社
66	株式会社竹山	78	北海道バイオシステム株式会社
67	株式会社ツルハホールディングス	79	北海道旅客鉄道株式会社
68	株式会社難波薬局	80	北海道和光純薬株式会社
69	株式会社間組 札幌支店	81	マルスイ札幌中央水産株式会社
70	株式会社富士メガネ	82	三笠製菓株式会社 札幌支店
71	株式会社北洋銀行	83	第一管区海上保安本部刑事課有志一同
72	戸田建設株式会社 札幌支店	84	北海道大学医学部精神医学教室同門会
73	日本電気株式会社	85	北海道大学泌尿器科同門会
74	日本メジフィジックス株式会社	86	北海道大学大学院医学研究科腎泌尿器外科学分野

掲載の許可をいただいた法人・企業等のみ掲載しています。(順不同)

お知らせ

◆ 医学研究科修士課程入試説明会の開催について ◆

平成20年度医学研究科修士課程第二次学生募集出願予定者を対象とした入試説明会が去る12月8日(土)午後1時から第3講堂で開催されました。(参加者14名)

説明会では、今年度から新たに導入された3つの教育コースについて、吉岡副研究科長から設置経緯・目的、

カリキュラム等について、又、平成20年度の学生募集出願手続き及び選抜方法等について順次、説明されました。

その後の質疑・応答では、参加者から各コースの具体的内容や医学専門コースと医科学コースの違い等について、質問が寄せられました。

◆ 平成20年度医学研究科(博士後期・修士第二次)学生募集出願状況

平成20年度医学研究科博士課程後期募集及び修士課程第二次募集の結果、出願者数は次のとおりでした。

博士後期募集 65名(男50名、女15名)
修士第二次募集 10名(男4名、女6名)

◆ 医学研究科・医学部教務関係行事予定表(平成20年1月～平成20年4月) ◆

月	日	曜	行	事	等
1	7	月	医学科1～4年次授業再開		
	11	金	博士課程(3月修了予定)短縮修了予定者・共著論文・単著論文提出期限		
	15	火	医学科5年次授業再開		
	19	土	平成20年度大学入試センター試験 高機能センターB試験場副担当《主担当：獣医学部》		
	20	日	※予備日26日(土)・27日(日)		
	22	火	全学教育科目(補講)【～23日(水)及び29日(火)～30日(水)】		
	23	水	医学科4年次授業終了		
	24	木	医学科4年次「共用試験CBT」【～25日(金)】		
	28	月	全学教育科目授業終了 保健学科2～4年次授業終了 医学科4年次「診断学実習」開始【～2月14日(木)】 修士課程(第二次)入学試験 9:00～筆記試験(英語・課題論文), 13:30～専門科目試験		
	29	火	保健学科専門教育科目(補講)【～31(木)】		
	30	水	博士課程(後期募集)入学試験及び語学試験 13:00～外国語試験, 15:20～専門科目試験 高桑榮松奨学金奨励賞等の募集期限		
31	木	全学教育科目定期試験【～2月13日(水)】			
2	1	金	医学科2・3年次授業終了 保健学科2～4年次定期試験【～13日(水)】 修士論文及び修士論文内容の要旨提出期限(3月修了予定者)		
	4	月	医学科2・3年次定期試験【～15日(金)】 課程博士公開論文発表【～8日(金)】 *(試行)博士課程最終審査【～19日(火)】		
	12	火	修士課程論文公开发表【～15日(金)】 第102回医師国家試験受験票及び医師免許申請書交付【～15日(金)】		
	15	土	医学科4年次「共用試験OSCE」		
	16	日	第102回医師国家試験【～18日(月)】		
	18	月	医学科3年次基礎医学実習開始【～3月7日(金)】		
	19	火	臨床実習オリエンテーション及び医学科4年次学生会懇話会【17:00～はるにれ】		
	20	水	「医学研究実習I」中間発表会(第1講堂, 第2講堂, 第3講堂)		
	21	木	平成20年度学部私費外国人特別選抜第2次選考試験(小論文・面接)実施 第91回助産師国家試験		

	22	金	研究生・科目等履修生願書受理期間【～29日(金)】 第94回保健師国家試験
	24	日	第97回看護師国家試験
	25	月	平成20年度本学第2次入学試験(前期日程)実施 第7試験場(代々木ゼミナール札幌校) 主担当《副担当:獣医学部》
	26	火	高桑榮松奨学金授与式 11:30～研究科長室 引き続き懇親会(第3会議室)
	28	木	第60回診療放射線技師国家試験
	29	金	第54回臨床検査技師国家試験
3	2	日	第43回理学療法士及び作業療法士国家試験
	3	月	退職記念最終講義 15:30～
	7	金	医学科5年次授業終了 *(試行)博士課程公開発表会
	10	月	修士・博士前期入学手続期間【～13日(木)】
	12	水	平成20年度本学第2次入学試験(後期日程)実施 第7試験場(高機能センター) 担当【医学部】
	17	月	修士第二次・博士後期入学手続期間【～21日(金)】 研究生・科目等履修生願書受理期間【～21日(金)】
	21	金	医学研究科・医学部医学科各賞授賞式・祝賀会
	25	火	学位記授与式(博士・修士・学士), 13:30～学士學位記伝達式, 引き続き卒業祝賀会 14:30～修士・博士學位記伝達式, 引き続き祝賀会
	26	水	第94回保健師国家試験, 第91回助産師国家試験, 第97回看護師国家試験合格者発表(14:00 北海道厚生局)
	27	木	修士・博士課程(6月修了予定者)論文提出期限
	28	金	第102回医師国家試験合格者発表(14:00 北海道厚生局)
4	2	水	修士課程入学式・ガイダンス(10:00～), 博士課程・入学式ガイダンス(13:00～), 医学研究概論【～4日(金)】 保健学科2～4年次授業開始 保健学科3年次編入学生入学ガイダンス
	4	金	第60回診療放射線技師国家試験, 第54回臨床検査技師国家試験合格者発表(14:00 北海道厚生局)
	7	月	医学科2～6年, 大学院授業開始 学部新入生オリエンテーション 第43回理学療法士及び作業療法士国家試験合格者発表(14:00 北海道厚生局)
	8	火	10:00～北大入学式, 14:00～医学科入学式
	10	木	全学教育授業開始
	12	土	学部新入生合宿研修・新入生ガイダンス含む(大滝セミナーハウス)【～13日(日)】 保健学科看護学専攻新入生研修 保健学科放射線技術科学専攻新入生研修【～13日(日)】
5	10	土	保健学科検査技術科学専攻新入生研修【～11日(日)】
	31	土	保健学科理学療法学専攻・作業療法学専攻新入生研修【～6月1日(日)】

※保健学科は一部5月の行事予定を記載

◆ 第1回医学部保健学科長賞表彰式挙行 ◆

医学部保健学科では、今年度新たに設けた「北海道大学医学部保健学科長賞」の表彰式を11月15日(木)に保健学科会議室において挙行了しました。

この賞は、本学の中期目標・中期計画において「学生の学習意欲の向上やボランティア等の社会活動を促進するため、顕彰制度の充実を図る」と定めていること、及び、今年度保健学科の第1期生が卒業することから、学生の表彰制度として設けたもので、このたび第1回の受

賞者として下記の学生が決定され、小林保健学科長より表彰状と記念品が授与されました。

看護学専攻	4年	荒川 結
放射線技術科学専攻	4年	加藤 友理
検査技術科学専攻	4年	葛西まどか
理学療法学専攻	4年	小島 尚子
作業療法学専攻	4年	工藤 亮



◆ 平成20年度科学研究費補助金応募状況 ◆

医学研究科・医学部

研究種目	新規申請数 件数	継続数 件数	合計申請数 件数
特別推進研究	0	0	0
特定領域研究	30	5	35
基盤研究(S)	3	1	4
基盤研究(A)一般	8	4	12
基盤研究(A)海外学術	0	0	0
基盤研究(B)一般	33	18	51
基盤研究(B)海外学術	1	2	3
基盤研究(C)	59	28	87
萌芽研究	52	7	59
若手研究(A)	4	0	4
若手研究(B)	29	7	36
若手研究(S)	2	0	2
若手研究(スタートアップ)	—	—	0
特別研究促進費	—	—	0
合計	221	72	293

◆ 平成19年度 各種助成の採択状況 ◆

平成19年12月31日現在

単位：円

財団法人等	種別	氏名	交付金
(財) 武田科学振興財団	一般研究奨励	西屋 禎	2,000,000
(財) 伊藤医薬学術交流財団	交流助成	笠原 敏史	200,000
		齋藤 亮	200,000
		武市 紀人	200,000
		田中 伸哉	200,000
		馬場 謙吉	200,000
		松尾 淳司	200,000
		矢部 一郎	200,000
	招聘助成	西村 正治	300,000
	学会等助成	川口 秀明	300,000
(財) 秋山記念生命科学振興財団	研究助成金(一般助成)	北村 信人	1,000,000
		城谷 圭朗	1,000,000
		田中 伸哉	1,000,000
		渡辺 雅彦	1,000,000
	研究助成金(奨励助成)	西江 渉	500,000
		富居 一範	500,000
(財) 加藤記念バイオサイエンス研究振興財団	加藤記念国際交流助成	西原 広史	200,000
(財) 大川通信基金	研究助成	横澤 宏一	1,000,000
(財) 三菱財団	自然科学研究助成	押海 裕之	3,000,000
		島 明子	700,000
(財) 武田科学振興財団	研究奨励継続助成金	小田 淳	1,500,000
ノーステック財団	若手研究補助金	犬伏 正幸	399,000
		大川原辰也	400,000
		絹川真太郎	400,000
		笹井 研	400,000
		西屋 禎	400,000
		堀之内孝広	400,000

	共同研究補助金	安田 和則	1,000,000
		山内 太郎	600,000
		吉永恵一郎	1,000,000
	研究開発シーズ育成補助金	近江谷克裕	2,000,000
(財) 持田記念医学薬学振興財団	研究助成金	押海 裕之	1,000,000
先進医薬研究振興財団	一般研究助成	筒井 裕之	1,000,000
		若尾 宏	1,000,000
	精神薬療分野一般研究助成	島山 鎮次	1,000,000
日本心臓財団	研究奨励	小山 司	1,000,000
日本応用酵素協会	研究奨励	絹川真太郎	2,000,000
(財) 上原記念生命科学財団	研究助成 (研究助成金) 基礎部門	絹川真太郎	300,000
	研究助成 (研究奨励金) 臨床部門	矢部 一郎	5,000,000
	海外留学助成 (リサーチフェローシップ) 基礎部門	絹川真太郎	2,000,000
	海外留学助成 (リサーチフェローシップ) 臨床部門	深谷 昌弘	4,000,000
	研究推進特別奨励金	伊藤 洋子	2,000,000
(財) 大阪癌研究会	一般学術研究助成	島山 鎮次	4,000,000
三菱UFJ信託銀行株式会社	公益信託 日本白血病基金助成	笹井 研	500,000
佐川がん研究助成振興財団	平成19年度佐川がん研究助成	島山 鎮次	500,000
(財) 日母おぎゃー献金基金	おぎゃー献金補助金	島山 鎮次	1,000,000
(財) 黒住医学研究振興財団	研究助成	水上 尚典	2,000,000
		西原 広史	700,000

広報室便り 4

やっと、念願の新しいホームページが出来ました。広報室員が全力を傾けて作ったHPをご堪能ください。また、学会・講演会・セミナーなどに関するお知らせをしたいときなど、是非、ご利用ください。近いうちに、英語版の改訂を進めて、世界に向けた発信を充実する予定ですので、ご協力お願い申し上げます。

広報室長 白土 博樹

編集後記

学術雑誌のオンライン化、診断画像のデジタル化、カルテの電子化など、ディスプレイをみつめる時間が増えています。広報誌もホームページ版が公開されていますが、紙版もめんめんと出版されています。カラーのホームページ版とは異なり、白黒印刷ですが、高解像度ディスプレイの細かな密集文字に疲れた目には、少しやさしい感じがします。紙版の最新号は医学系事務部総務課前に置いてあります。

(佐藤松治)

Home Pageのご案内

医学研究科／医学部広報は

<http://www.med.hokudai.ac.jp/ko-ho/index.html>

でご覧いただけます。また、ご意見・ご希望などの受け付けメールアドレスは、

kouhou-office@med.hokudai.ac.jp

となっております。どうぞご利用ください。

北海道大学大学院医学研究科／医学部

発行 北海道大学医学研究科・医学部広報編集委員会
060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
連絡先 医学系事務部総務課庶務担当
電話 011-706-5892
編集委員 近江谷克裕、山本 有平、田中 真樹
佐藤 松治、西岡 健、平塚 志保